

令和 6 年度 大学塾 第 4 ステージ 開催 案内

特別講演会 葛屋重三郎 大河ドラマの主人公の実像にせまる



今年の特別講演会は 1 月 13 日 (月・祝日) 生涯学習センター講堂において開催しました。講師はおなじみのお江戸ル“ほーりー”こと堀口菜純氏です。タイトルは、「葛屋重三郎〜大河ドラマの主人公の実像にせまる」。応募者は 142 名、受講者は 129 名です。現在、NHK 大河ドラマで放映中です。葛屋重三郎は、田沼時代の寛永 3 年正月 7 日に遊郭の町吉原で生まれました。重三郎 7 歳の時、両親が離別したため、吉原で葛屋という屋号の茶屋を営する北川氏に引き取られその養子になって葛屋重三郎になった。当時吉原は幕府公認の花街だったが、初期の花魁は容姿だけでなく教養、芸が必要で三味線、歌、踊り、華道、書道も会得していた。花魁、太夫は客を選ぶ立場だった。客は大名たちとお付き合いしていて、客は「つう (物事に精通していること)」「いき (心意気で精神面、心があか抜けていること)」が大切にされた。田沼時代は蔵前の札差 (お米を金に換金する業者) が金持ちで吉原に通った。吉原の地図を見ると大門をくぐると「引手茶屋 (遊び方の案内所)」があり賑わっていた。



20 代に入ると貸本屋として書店「耕書堂」を吉原の入り口である大門に出店し、出版物の小売りを始めた。やがて書店業のかたわら出版業に乗り出すと 30 代には様々なジャンルの本を企画して出版し、次々とヒットさせた。まず、安永 4 年 (1775) に「吉原細見」を出版し、安永 9 年 (1780) より当時流行黄表紙の出版を開始する。黄表紙とは文章や絵を巧みに織り交ぜて世相を表現し、読み手の知的好奇心をくすぐった、大人向けの娯楽小説のことです。こうして流行の出版物を刊行する版元へ転身を遂げていく。最初は狂歌絵本で狂歌は和歌の形式保ちながらも、通俗的な言葉により滑稽さ風刺の精神が盛り込まれた短歌のことである。寛政 8 年ごろになると浮世絵に力をいれた。美人画の喜多川歌麿、役者絵の東洲斎写楽の 2 枚看板で浮世絵のマーケットをリードした。



葛屋重三郎は喜多川歌麿をかわいがっていて耕書堂に住まわせていた。絵がうまく錦絵「美人画」で勝負した。喜多川歌麿の美人画はそれまでは全身像だったが上半身顔のアップの美人画があたりお客が殺到した。「寛政三姉妹」「ビードロを吹く女」など。

次に「役者絵」で東洲斎写楽の大首絵がヒットした。大首絵はそれまでの役者絵と異なりアップでの浮世絵で好評だったが一年足らずで消えた。余りにもリアルに書こうとしすぎて世間に受け入れられなかったため。こうして江戸のメディア王となったが 48 歳で病に倒れた。

講師は、浮世絵を大型スクリーンに映して解説していただき、わかりやすく理解できました。

受講者の意見：

- ・ NHK 大河ドラマがスタートしタイムリーな講演内容でよかった。
- ・ ドラマの内容が理解できこれから大河ドラマが楽しみになりました。
- ・ 講師がよかった、言葉も明瞭でよく理解でした。
- ・ 葛屋重三郎が活躍した時代背景と吉原の役割がよくわかりました。等好評でした。

(安田 善英)

みんなの広場

最近よく聞くカタカナ語は？ <ビジネス編>

このころはニュースなどでカタカナ語が多く使われて分かりにくいな、と感じることがありますね。近世以降、外来語は漢字語に翻訳されて定着してきました。しかし、近年では情報量の増大と流通の加速から、そのままカタカナ表記するカタカナ語が盛んに使われるようになりました。特に技術革新が激しいIT(情報技術)分野や、グローバル化(国際化)が当たり前のビジネス分野では、カタカナ語やABC略語が氾濫し、“日本語の危機”と考える人もいます。しかし新語を理解すればニュースの理解が深くなります。

最近、新聞・TV・Internet でよく聞カタカナ語 15 項目を並べました。

1. 【エッセンシャルワーカー】 essential worker 医療や福祉、保育、物流など社会の根幹を支える労働者
2. 【サブスクリプション】 subscription 定期購読・継続購入
3. 【アジェンダ】 agenda 予定表、行動計画
4. 【アイスブレイク】 icebreak 初対面の人同士が緊張をほぐして打ち解けるためにおこなう、さまざまな働きかけのこと。導入時の雑談
5. 【アサイン】 assign=仕事を割り当てる、役職に任命する、部署に配属すること
6. 【エビデンス】 evidence 証拠、根拠、裏付け。内容がわかるような契約書や請求書、領収書、議事録などの文書やデータ、メールなどのこと
7. 【ファシリテーター】 facilitator「物事の進行などを促進する人」や「容易にする人」
8. 【スキーム】 scheme=枠組みや仕組みのこと。ビジネスシーンでは、特定の課題解決に向けた具体的な構想や戦略、計画を指して使われます。
9. 【コンプライアンス】 compliance (何かに) 応じる・従う・守るを意味します。従ってコンプライアンスも「応じること・従うこと・守ること」
10. 【アセスメント】 assessment 影響評価(事前評価、再評価、評価、査定)
11. 【インフルエンサー】 influencer 世間に与える影響力が大きい人物
12. 【リテラシー】 literacy 読み書きの能力、ある分野に関する知識や能力を活用する力
13. 【ダイバーシティ】 diversity 集団の中の多様な人材を活用すること
14. 【メタバース】 metaverse インターネット上の三次元仮想空間
15. 【サステナブル】 Sustainability Management 持続可能な経営や管理、廃棄物をゼロにして地球環境への負荷を軽減する経営

以下 別講に

- 【インバウンド】 inbound 顧客からの受付を行う業務、また海外からの旅行客を指す
- 【コンセンサス】 consensus 「合意」「一致した意見」「総意」など
- 【デフォルト】 債務不履行、初期設定
- 【アサップ】 as soon as possible の略 ASAP できるだけ早くという意味。なるはや
- 【プロパガンダ】 propaganda 思想や教義を宣伝すること
- 【クライアント】 client 顧客、広告代理店から見た広告主、弁護士、建築家の依頼人
- 【コアコンピタンス】 core competence=核となる(core)能力(competence)、他にはない強み、他がまねできないような得意分野のこと。他社との差別化ポイントになるような技術やサービス
- 【ブレスト】 brainstorming ブレインストーミングの略。会議におけるグループディスカッション方法の1つで、集団発想法などと訳されています。複数の参加者がそれぞれ自由に意見を出し合うことで斬新なアイデアを出しやすくする会議方法
- 【レジュメ】 résumé 履歴書、経歴書、概要、アウトライン
- 【アグリー】 Agree 同意する、賛成する
- 【タスク】 task 課された仕事・小さな仕事の単位のこと 職務、仕事、課業、任務
- 【リスケ】 reschedule (リ・スケジュール)を略した和製英語、計画や予定の変更・調整
- 【オンスケ】 on schedule オンスケジュールの略
- 【マター】 matter 話し合いや考慮の対象となる事柄
- 【イノベーション】 innovation 新しいアイデアや技術を導入し、それによって価値を生み出すこと。革新や変革

https://minnanospace.com/business_katakana_english_mtg/

などを参考にしました。「ビジネス編」お役に立ちましたでしょうか？

* 以下 別稿 2-「生活編」、3-「和製英語編」に続く。

(広報 G/HP 担当 神戸 明)

令和7年1月 運営委員会 報告・連絡

日 時 : 令和7年1月6日(月) 15:00~
場 所 : 生涯学習センター: 5階 研修室 4

代表挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆さま平穏な年明けが迎えられましたでしょうか、当会は、この一年が新入会員の獲得で会の再生を図るべく命運を掛けた年となります。更に皆様と共に希望のある明るい年となる様、粘り強く頑張っていくと思います。会員各位に於かれましてもお知り合いなどへのご紹介などよろしくお願いいたします。

1月は、「特別講演会 蔦谷重三郎」が講堂で開催されます。すでに応募締切日は過ぎていますが、140名を超える応募があり、大人数のため、受付を2か所設けるなどスタッフの手配や各役割も重要となりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。また、当会も節目の設立30年目を迎えましたので、皆さまの一層のご協力を得て楽しい運営が出来ます事を願っています。宜しくをお願いいたします。

2025年の干支は「乙巳(きのと・み)」辛抱強さが試される年と言われています。すぐに結果が出なくとも焦らず粘り強く会の再生に向けて取り組む姿勢が重要です。着実に前進し結果に結びつく事を願いたいと思います。

議 事

(1) 情報交換

- ・足立朝日の新年名刺広告の出稿した(1/5付け)回覧

(2) 月例会開催について

- ・12月18日(水) 今年の振り返りと懇親会 17時~「日本海」 8名出席
- ・1月15日(水)「新入会員の紹介」
- ・2月17日(月) 未定
- ・3月 お花見の予定

(3) あだち区民大学塾: 講座企画会議: 1/6(月)、2/3(月)、検討会議: 1/15(水)、2/17(月)

- ・12月 元NHKアナから学ぶ 話し方スキルアップの技法 12/2, 16, 23(月) 研1
応募者 24名 受講者数16名 延べ受講者46名
- ・1月 蔦屋重三郎 大河ドラマの主人公の実像にせまる 1/14(休・月) 講堂
応募者 141名(1/6現在) 12/24受講券送付済、運営スタッフの協力をお願いします
*運営手順、運営スタッフ分担表の説明し分担をお願いした: 受付2か所設置
- ・2月 今さら誰にも聞けない「日本史の謎」 2/15、22、3/1(土) 研1
応募締切日 2/3(月) 応募者は24名(1/6現在)
- ・3月 講座なし
- ・令和7年度前期 大学塾講座検討中、前期講座の研修室予約依頼中、会議の研修室予約済
- ・4月 日本経済入門2025 4/5、12、19(土) 研1 予約確定 区報原稿提出済
- ・5月 千住宿開宿400年記念講座 「千住宿400年の人と歴史」
5/8、15、22、29(木) 研1、現地学習 講座企画書承認、区報原稿提出する

(4) 各部局からの報告および提案

- ① 学習支援部: 講座の交換便へチラシ封入作業なし
- ② ボランティア活動推進部:
- ③ 事務局: ニュース発送 12/25(水) 新年号発送済 事務局部会 1/10(金) 12月決算
- ④ 広報グループ: 楽学ニュース 313号発行 ホームページ 1/1 発信、メルマガ 214号発行

(5) 会員募集

- ・メルマガ 9月1日号以降会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中
- ・足立朝日に告知した(9月5日号)
- ・あだちサークルフェアで勧誘、NPOフェスティバルで勧誘した
→サークルフェアで2名入会頂いた
- ・大学塾講座で会員募集案内を実施中

(6) その他

- ・社会教育 1月号(特集: 生涯学習論 2025) 回覧

次回運営委員会 2月3日(月) 15:00から(研4)

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：マイオカインの素晴らしい力 筋肉と健康の関係を知る

あだち 100 年大学講座

日 時：3/1（土）午前 10 時～正午

定 員：30 人（対面）、10 人（オンライン）、
いずれも事前申込先着順

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：眞鍋 康子 氏（東京都立大学 人間健康科学
学研究科 ヘルスプロモーションサイエ
ンス学域 准教授）

内 容：「体を動かすこと＝健康に良い」は周知
のこと。でもそれはどうしてでしょうか？近年分
かってきた、筋肉から分泌される「マイオカイン」。
その様々な健康効果、筋肉と健康の関係を研
究している専門家からお話を伺います。

◎講座名：文教大学連携 なぜ名字と地名は、漢字二字が多いの？

あだち 100 年大学講座

日 時：3/2（日）午前 10 時 30 分～正午

定 員：50 人（事前申込先着順）

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：早川 明夫 氏

（文教大学地域連携センター 講師）

内 容：なぜ名字と地名は漢字二字が多いのか、
その歴史を一緒に紐解いてみませんか。

お申込みは：電話（03-5813-3730）又は直接窓口
インターネット【近所 de まなびナビ】で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

※感染症拡大予防のため講座の中止、延期の場合も
ございます。予めご了承ください。



荒川西新井橋北詰より下流右岸側 生涯学習センター

月例会のご案内

令和 7 年 2 月「月例会」のご案内

日時：2 月 17 日（月）午後 15 時～

（情報交換会）

皆様の積極的な参加をお願いいたします。

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
2 月 3 日（月）午後 3 時～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
2 月 17 日（月）午後 3 時～4 時 日本海
- ◎ 学習支援部
2 月 17 日（月）午後 1 時半～2 時 研修室 4
- ◎ ボランティア活動推進部
2 月 休 会
- ◎ 事務局
2 月 3 日（月）1 時～2 時 ワークルーム
2 月 12 日（水）1 時半～3 時 ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
2 月 17 日（月）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
2 月 3 日（月）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
2 月 10 日（月）

★お問い合わせ＆ご意見

- ◎「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話：090-3207-8444
E-Mail：tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 日本における 脱炭素化の取組

地球温暖化を食い止めるため、近年、世界中で取組が進められているのが「カーボンニュートラル」です。

カーボンニュートラルとは、「温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする」、つまり、温室効果ガスを「排出する量」から「植林や森林管理などを通じて吸収する量」や「地中に埋めることなどにより除去する量」を差し引いてプラスマイナスゼロにすることを意味しています。これまでに 140 ヶ国以上が「2050 年までのカーボンニュートラル」を表明（2021 年 11 月時点）しており、世界中で脱炭素社会の実現に向けた挑戦が始まっています。日本も、2020 年 10 月に当時の首相が「2050 年カーボンニュートラル」を宣言しました。この目標を達成するため、予算、税、金融、規制改革・標準化、国際連携などの政策を総動員することにより、カーボンニュートラル実現を後押しする様々な革新的技術の研究開発と社会実装を進めることが不可欠です。

このため、国は 2 兆円の「グリーンイノベーション基金事業」を立ち上げ、水素や再生可能エネルギー（洋上風力、太陽電池）、自動車などの重点分野で、これまでにない革新的な技術を生み出すとともに、それを社会にいち早く届けていくことに挑戦する企業を、最長 10 年間にわたって後押ししていきます。そして最終的には世界のグリーン産業をけん引し、経済と環境の好循環を創り出すことによって、2050 年のカーボンニュートラル実現を確実なものにしていく方針です。

（金子 勝治）